京都大学地理学談話会

会　報

第22号

2011

［目　次］

寄稿

30年ぶりの熊野古道調査…… 水田　義一（1968年卒） 1
今の仕事を通して思うこと…… 高山　圭介（2005年修） 3

秋季地理学談話会の報告 …… 5

〈ＯＢ交流会〉　講師：室野　拓（2003年卒），鈴木地平（2004年卒）
〈講演会〉
アホのつぶやき「私の専門は何？」…… 安仁屋　政武（1967年卒）

研究室便り

＜総合博物館における地図資料等の利用について＞ …… 8
＜博士の学位について＞ …… 9
＜外国人研究者～滞在された方～＞ …… 9
＜地理学教室への寄贈図書～2010年度～＞…… 9
＜研究室の動静＞ …… 14
〈３回生，修士１回生の自己紹介〉
〈2010年度の実習旅行〉
〈学部卒業生・院生の進路〉
〈院生の研究状況の報告〉
〈2011年度講義題目〉

事務局から

＜地理学談話会2010年度会計報告＞ …… 18
＜訃報＞…… 18
＜住所不明者についてお願い＞ …… 18
＜オープンキャンパス：2010年度の報告と2011年度のお知らせ＞ …… 19
＜2011年度秋季地理学談話会のお知らせ＞…… 20
＜地理学教室所蔵の写真資料について＞ …… 20
＜地理学談話会名簿改訂のお知らせとお願い＞ …… 20

※表紙写真：２０１０年８月１１日のオープンキャンパス（総合博物館地理作業室で古地図見学）

寄稿

30年ぶりの熊野古道調査

和歌山県立紀伊風土記の丘
水田　義一(1968年卒)

私は 2011 年 3 月末日で，和歌山大学を定年退職した。省みると 1964 年に京都大学へ入学して以来，大学院，京都大学教養部助手をへて，1975 年に和歌山へ赴任し，47 年間を学生あるいは教員として大学のお世話になったことになる。和歌山大学ではその大半の 36 年を過ごしたことになる。

和歌山大学の最後の 1 年間は，和歌山県教育委員会の依頼によって熊野古道の調査に深くかかわることになった。今回は同じ古道を 30 年ぶりに調査した思いを記したい。

私が今回熊野古道の調査に携わることになったのは，和歌山県文化財保護審議委員をしてきたこと，専門が地理学であることや，居住地が和歌山であることなどから依頼されたものである。調査委員の多くは居住地が和歌山より遠く何度も現地調査に出かけるのが難しいため，私が現地調査のほとんどに参加した。

ご承知の方が多いと思うが，熊野古道は 2007 年に世界遺産に指定された「紀伊半島の霊場と参詣道」の一部である。熊野古道は熊野三山へ通じる紀伊路，中辺路，大辺路，小辺路，伊勢路などがその主要な道である。ところが，世界遺産の指定を目ざした時には，指定のための現地調査と整備，書類の作成・翻訳などの作業量が膨大で，指定範囲に含めることができずに終わった場所が残った。そこで和歌山県は，現在もなお世界遺産に指定するのがふさわしい場所の追加指定を，指定後 10 年後を目標に，調査を始めた。私もその調査メンバーの 1 人に選ばれたわけである。

30年前の古道調査

実は古道の調査は私が和歌山大学にして赴任した直後の 1978 年に行ったことがある。それは当時の文化庁が「歴史の道」として，全国を都道府県単位で調査を行うよう提案した。和歌山県は直ちにこの調査に呼応して，委員長を当時小生の上司であった故小池洋一先生に依頼して調査を開始した。すでに和歌山県は高野山において，町石道と呼ばれる紀ノ川河港の慈尊院から高野山山頂の金剛峯寺境内に至る参詣道の調査を行っていた。町石道は鎌倉時代に寄進によって建立された石碑が名前のとおり 1 町ごとに置かれた約20キロメートルの見事な参詣路である。道や町石の成立や整備にかかわる調査と，三千分の一地図に道のルートと町石の位置を記し，各町石の刻文を示しているすぐれた報告書であった（『高野山町石・金剛峯寺境内保存管理計画策定報告書』1977)。

地図作成委員として参加した私は，その範囲が広域なことから，五万分の一地形図にルートと沿道の道標や文化財を記

入することとした。赴任間もない小生に定まった調査区間の割り当てはなかったのでいくつかの代表的な古道を踏査した。印象深かったのは，那智大社から本宮大社へ通じる，大雲取越えを事務局の山本親平氏と踏査したことである。標高 870 メートルの越前峠を越える道の険しさは旅行者には厳しい。かつて後鳥羽上皇に随行した藤原定家も嘆いた道の険しさを，地図においても道の勾配の険しさとして表現したいと思い，紀伊路，中辺路の地形断面図を併せて作成した（和歌山県教育委員会，『歴史の道調査報告 I　熊野街道』1979）。その後刊行された他府県の『歴史の道』調査報告では，地形断面を示した報告書は見なかった。道の険しさを感じる道は少なかったのであろうか。

2010年の古道調査

30 年前の調査は，古道がどこを通っていたかを調査するものであったので，古道が国道，県道や自動車道路として整備された場合もそこに街道として示していた。今回の古道調査はそれがかつて熊野参詣路として利用されたか否かのみならず，将来史跡として指定できるような古い道の形態を残しているかを見極めねばならなかった。具体的には，歩道として使われ車道のために拡幅されていない，近代的な舗装・改良が行われていないなどである。

調査の範囲は，海南市から田辺市までの紀伊路。田辺市から海岸を通って那智勝浦に至る大辺路と田辺から本宮へ至る中辺路の副次的なルートであった。歴史的な道が，将来史跡と指定できるような景観を残した道であるかという基準は実に厳しく，道路の区間は限定的となり，道の連続性はなく断片的である。そのため候補になる古道から，景観の残る区間を地元の自治体から挙げていただき，県の職員が予備調査をしたうえで，委員を加えて現地調査を行うという手順を取った。

国土の変化

少し大仰な副題であるが，今回の古道調査は，都市からもっとも離れ，自動車交通も行われていない，いわば近代化の手の届いていない場所を歩いたことになる。そこでは 100 年の土地利用の変化のいろいろな面を観察することになった。

道路の変化は，平地を通る古道は，県道や国道に整備されて，近代的な自動車道路に変容している。里道であっても平地の道は，自動車の通行が可能なように道幅が広げられ，舗装されている。古い道が残る，すなわち調査で歩いた区間の多くは，流域の異なる集落を結ぶ峠道である。

自動車道はなるべく勾配を小さくするため海岸や河谷に沿う道が選ばれる。ところが，歩行に使われる古道は勾配がきつくても，最短距離を選ぶ傾向がある。そのためかつての古道の峠道は自動車道としては避けられ，幹線としては放棄される。通行のなくなった古い道は数十年で自然の山に帰る。調査のために歩いた道は，ほとんど峠道でかつ地元の方がわずかに使用されている道であった。

第 2 に観察したのは，峠に至る道に沿って，水田の跡や宅地の跡が多く見られたことであった。調査で休みたくなる地点や峠に，茶店の伝承のある場所も多く，昭和前期までの交通の幹線であったことを感じた。送電や電話線のための電柱や部品の残骸も多く見られ，道路は通行の為でなく，インフラ設備の置かれる場所であるのは変わっていないことを感じた。かつて，人口が六千万人以下の時には国土の隅々まで人家や農地があった姿を見ると，人口が増加したにも関わらず，人は都市へ集中し，限定された国土しか利用していないのだと思いを強くした。

30 年前に同じ調査をしていたらどんな風景が見えたであろうか。恐らくあまり変わらない風景であろう。大雲取越えの終点に近づくと，両側の水田跡にびっしりと杉が植えられていたのを思い出す。今年歩いた峠道は，それがより大きな木に成長したものであろう。

2010 年 9 月に串本から古座にかけて調査をしていた。そのとき NHK では「街道てくてく旅　熊野古道を行く」という番組を放映していた。数日の違いで NHK のスタッフとテニスプレーヤーの森上亜希子が毎日熊野古道を歩いていた。放映されたのは，自動車道として舗装された歩きやすい道が大部分であった。私たちの調査した道が，もう一度熊野古道として認知されるようになるには，この道が史跡に指定され，世界遺産へ追加登録されるまでの多くの労力が必要だろう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今の仕事を通して思うこと

(財)日本生産性本部
高山　圭介（2005年修）

私は今，地理学とは直接関係のない仕事に就いているので，この文章のご依頼をいただいたときは正直戸惑いました。しかし考えてみると，社会人経験も 12 年目を迎え，今さらですが「はたらく」ということがようやく板についてきたような気がしています。この会報は，学部生や大学院生の方々も手に取られる機会が多いと思いますので，仕事の紹介を通して，「はたらく」ことの原動力が自分のどこにあるのか，少し考えてみました。これから就職を考えようとしておられる学生の皆さんに，僅かながらでもご参考になれば幸いです。

今私は，ある公益法人で，主に企業・組織の人事制度のコンサルティングの仕事をしています。自社の人事制度を見直してほしいというクライアントの要望を受け，外部の客観的な立場から，情報提供や制度設計，労使交渉時のアドバイス，制度導入時の説明会から研修の講師まで担当するのが私の仕事です。もう少し詳しくご説明しますと，例えば今ここに，賃金制度は見事に年功序列型（賃金が担当している職務や役割，貢献度に比例しておらず，勤続年数だけで水準が決まっている状態）で，人事評価制度や目標管

理制度は機能しておらず（年功序列なので機能するはずありません），比較的高齢の社員が多くのポストを占めている企業があったとします。当然ながら付加価値の拡大を上回るペースで総額人件費が膨張を続け，昇進どころか昇格もままならい中堅・若手社員は腐るか，あるいは脱出しはじめ，その企業は崩壊の淵に立たされることになります。

こういう場合，まず人事制度の根幹である資格等級制度の基準を変更します。日本の企業・組織の場合（というよりも日本だけですが），まだその多くが社員に属する基準（年齢，勤続年数，職務遂行能力など。「人基準」と言います）で資格等級を定め，それに社員を格付けしていますので，それを「職務」「役割」基準（「仕事基準」といいます）の等級制度に置き換えます。そうすると，勤続年数の長い人も，「今担っている職務・役割」に基づき再格付けされるわけですから，低い等級に格付けされると賃金が下がる人も出てきます。同時に，手当もできる限り廃止し，余った人件費を，貢献度の高い人に回るようにするわけです。

ここまで読んでいただいてすでにお気づきかと思いますが，この仕事は「恨まれ役」です。さらに間違いは許されず，雰囲気はいつも険悪で，強い批判を浴びることもあります。辛いことが多い上に，すべてが上手くいくとは限りませんので，頓挫したときは本当に暗澹とした気持ちになります。しかしながら，今のところ私は，気苦労の多いこの仕事が嫌いではありません。それはやはり，この仕事が自分の「思い」「志」といったものに沿っているからだと感じています。

日本の企業・組織は，戦後長らく「終身雇用」「年功序列賃金」型の制度で運営されてきました。そのことが日本の高度成長を支えたことは事実です。しかしながら，雇用を保証する反面，長時間労働や望んでいない転勤，単身赴任を社員に強い，その人らしい職業観やキャリア観を犠牲にして，強い耐性を持った画一的な人材だけを生み出してきたこともまた事実です。残念ながら多くの企業・組織は，この過去の「大成功モデル」をまだ引きずっており，国境を越えたレベルでの知識やアイデアが大きく影響する現在の経営環境において，日本の成長の足枷になっていると思います。私はこのような現状をどうしても変えたい，多様な属性を持った人々が個性を失うことなく働き，その結果としてできる限り公正・公平に成果が分配される社会を作りたいのです。

もちろん，ここまで自分が納得するには，多くの葛藤もありました。しかし例え収入が高くても，「思い」や「志」に沿った仕事でなければ，「やってられない」のではないでしょうか。学生の皆さんには，余裕のある学生生活のうちに，自分はどういう職業で社会に貢献しようとす

るのか，考えはじめることをお勧めします。それは 20 代から捜し始めても，簡単に見つかるものではないかもしれませんが，それでも捜し続ければ，いつかきっと出会えることができます。小さくても確かな糸口を見つけることができれば，名だたる有名企業以外にもいくらでも選択肢があることがわかり，自分を少し自由にできるはずですし，何よりもそれは，これから生き抜いていくための強力な武器になると思います。

東京ではまだ震災の余震が続いており，街は落ち着きを取り戻していません。さらに影響が大きいのが計画停電で，どの業界も今年はすでに前年比大幅マイナスを見込んでいます。深刻な不景気の上のこの国難ですから，数年は辛い日々が続きそうですが，まずは自分の仕事をしっかりとやっていくことが，生き残った人間の責任なのかなと思います。少なくとも，これまでお世話になった方々や自分自身に対して恥じ入ることがないように，これからも自分なりにベストを尽くしていきたいと考えています。

→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

秋季地理学談話会の報告

2010 年 10 月 30 日，文学部新館第１・２講義室において，秋季地理学談話会を開催し，大勢の卒業生や在学生の皆様にご参加いただきました。ご講演いただいた安仁屋政武氏（1967 年卒）はじめ，ＯＢ交流会で講師をしてくださった卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。談話会に先立って，教室見学会も企画されました。

以下，ＯＢ交流会と講演会についてご報告いたします。

＜OB交流会＞

卒業生の室野　拓氏（京都市役所，2003 年卒）と鈴木地平氏（文化庁，2004 年卒）のお二人に講師としておいでいただき，在学当時の思い出や社会に出るまでの体験，社会に出てからの歩みを在学生たちにお話しいただき，さまざまなアドバイスだけでなく暖かい励ましもいただきました。若い世代の活発な意見交換があり，楽しい交流の機会となりました。

講師の方々と司会者（網島　聖氏（Ｄ２）と岩橋　涼氏（４回生）との間で打ち合わせして，進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。

＜講演会＞

アホのつぶやき「私の専門は何？」

安仁屋 政武（1967年卒）

このタイトルを見て，「ばかにするな」と反応した人は多いと思う。まがりなりにも国立大学に30数年間勤めた人間が，自分の専門を知らないとは考えられない。しかし，これはある程度，私の本音である。今でこそ，外国に行って「お前の専門は何だ」と聞かれたら「パタゴニアの氷河研究だ」，と答えているが，以前は，論文はパタゴニアの氷河を研究して書いているが，学部の授業は「地図学」，大学院の授業は「リモート・センシング」，大学院生は「ＧＩＳ」と「リモート・センシング」で論文指導をしている，とぐたぐた説明していた。これを反映するかのように，最初の著作として「主題図作成の基礎」を1986年に書いた。次に，1987年の「地理学講座２−地理的情報の分析手法」でリモート・センシングを担当し，1990年には訳本「地理情報システムの原理」，そして1998年に「パタゴニア—氷河・氷河地形・旅・町・人」を出した。2010年には訳本「ビジュアル大百科　氷河」が印刷された。

これは多分に私が修士の2年の秋（1968年9月）から留学したアメリカの大学での教育によるところが大きい。最初2年間の予定であったが，日本ではできないことが思う存分できたので勉強が面白く，博士課程まで進学した。この時，今は時効だから言うが，京大の先生から「修士で帰ってこないのなら，お前の就職の面倒はみない」と言われた。当時，アメリカのかなりの大学の地理学科では，博士課程の終了要件として幅広い分野の習得を必須としていた。例えば，私が留学していたジョージア大学では，主専攻，副専攻，関連分野，テクニック，そして外国語2つ，と5分野が必須となっていた。しかも副専攻は主専攻が自然地理の場合は人文地理の分野（都市地理，経済地理，歴史地理など），逆に人文地理の場合は自然地理（地形，水文，気象・気候，環境など）を選ばなければならなかった。関連分野は他学科の科目で，地形の場合は例えば地質学，経済地理の場合は経済学など，テクニックは地図学，リモート・センシング，分析法などである。外国語は大学の一定レベル以上の授業で単位をとるか，全国統一テストで合格点をとるかで認定された。そして，外国語を除く4分野の最終筆記試験に合格し（1科目3－5時間ぐらい），次に口頭試問（全部で2時間ぐらい）に合格して，初めて論文執筆が許された。私は地形を主専攻としたが，都市地理もおもしろかったので，どちらにするか一時迷った。それで副専攻は都市地理，関連分野は地質学，テクニックは地図学とリモート・センシング，外国語はドイツ語（全国統一テスト）と日本語（これは認定）にした。こう書けば，私の筑波大学での学部・院の授業と研究分野が理解できると思うし，

出版歴もうなずけると思う。

その後ポスドクをやり日本に戻ってきたのは 1977 年 3 月であった。当時，新設された筑波大学大学院環境科学研究科でリモート・センシング，学部は第一学群自然学類地球科学専攻で地図学を担当するためであった。研究は広い意味での地形学分野だったので，その後京大地理学教室とはほとんど接触がなく，今日までに至っている。

後半は，1983 年に初めて行ってから，はからずも私のライフワークとなっているパタゴニアの氷河研究の紹介を行った。パタゴニアは南米のチリとアルゼンチンにまたがる広大な地域で（日本の 2 倍以上の面積），南半球では南極に次ぐ大きな氷体がある（写真参照）。この地域は天気が非常に悪い上に風が強く，しかもアクセスがものすごく厳しかったので，ほとんど学術研究の対象にはなっていなかった。このような地域であるから，学術研究といっても半分は探検・冒険であった。一歩間違えば， 永久に帰ってこられなかったことは枚挙にいとまがない。これには学生時代授業をサボりまくって登っていた山の経験が非常に役立っている。従って，1980 年代，1990 年代に書いた論文は，ほとんどが世界で初めてというものであった。このようなフィールドに巡り会えたのは研究者としてこの上ない幸せである。そして最初に行ってから，これまでに 15 回以上行っている。また，科研もこれから 4 年間続くので，当分，パタゴニア参りが楽しめる。退職してのんびりと，山・山スキーに精を出すはずだったのが，気がつくと退職前とあまり変わらない生活を送っている。この年に

北パタゴニア氷原を西から見る（2011 年 2 月 10 日撮影 2 枚をモザイク）。左端の山がパタゴニアの最高峰モンテ・サン・ヴァレンティン（3910 m）。右端奥の山が 1958 年に日本（神戸大学）とチリ合同隊が初登頂したセロ・アレナーレス（3365m）。手前の湖は標高十数メートルで、数キロで太平洋に繋がっている。氷原の標高は 1000 − 1500 mぐらい。神々しさを感じる世界である。

なってフィールド調査を行い，論文を書くなどとは 40 代の頃は夢にも思わなかった。

私がアメリカへ留学した 1968 年は，日本の学生運動がピークになる少し前だった。京大の同級生達が勉強できないと嘆いていたとき，私は京大では勉強できなかったことを，アメリカの大学で思う存分勉強する機会に恵まれた。当時，少し後ろめたい気がしたものだが。今の自分があるのは，京大の（良い意味での）ずぼらさ，いい加減さの上にアメリカでの勉強・経験が重なっているからだと思っている。昨今，日本の学生・若者の国内志向が取りざたされている。それなりの理由はあるのだろうが，アメリカで 10 年近く過ごし，アメリカ人はもとより世界各国からの留学生と知り合い，彼らの文化に直接触れた経験から見ると実にもったいないと思う。アメリカでの経験はその後の人生にとってなにものにも代え難い糧となっている。昔，世界の辺鄙なところを旅行していて一人旅の日本の若者に会うと，かなりが京大生か北大生であった。しかし，最近は若者の一人旅に出会うことすら少なくなった。私は，地理学の原点は現場を見ることにあると思っている。バーチャル世界も悪くはないが，本物はもっと素晴らしい。世界には日本では想像もつかない本物がいくらでもある。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

研究室便り

＜総合博物館における地図資料等の利用について＞

地理資料部門の助教は 2008 年度より不在が続いておりますが，当面の代替措置として，地理資料担当の教務補佐員に地図・地理資料の管理にあたっていただいております。（勤務日：月，水～金。勤務時間：9:00 - 17:00（除く，昼休み）

総合博物館地理資料部門に収蔵されている地図資料等の閲覧・撮影などを希望される方は，お手数ですが，下記の窓口までご連絡のうえ，所定の手続きをお取りくださいますよう，お願いいたします。

京都大学総合博物館　事務室

電話：０７５－７５３－３２７２

＜博士の学位について＞

博士の学位に関することがら全般について，概略を説明いたします。

同封しております「学位論文の申請と審査について」（別紙）をご覧下さい。課程博士と論文博士，二つの種類の学位について，内容や手続き等を説明しております。

学位の申請を希望されておられる方は，文学部の教務第二掛（電話：０７５－７５３－２７１０）から事務手続きの詳細に関する冊子や説明をお取り寄せいただきますとともに，地理学の専修主任まで，学位の申請希望をお知らせくださいますよう，お願いいたします。当該分野の教員の了承を得ていることは，学位申請の要件の一つです。主任（教室の窓口として）を介して，申請者と教室との間で相談や検討を重ねながら手続きを進めることで，全体のプロセスをより円滑に進められたらと存じます。

なお，今年度の地理の専修主任は，田中和子が務めております。ご不明の点などございましたら，どうぞお問い合わせください。また，もし，教務掛との連絡等が難しいようでしたら，これについてもご相談くださいますよう，お願いいたします。

博士号にふさわしい優れた論文であれば，積極的に学位を出したいという地理学教室の方針に変わりはございません。ご考慮いただければ，幸いです。

連絡先（田中）
電話：
０７５－７５３－２８３２（研究室）
電子メール：
sugiura.kazuko.8x@kyoto-u.ac.jp

＜外国人研究者～滞在された方～＞

2011 年 10 月 16 日から 12 月 12 日まで約２か月間，リチャード・ホーウィット（Richard Howitt）先生（Macquarie University 教授，オーストラリア）が文学研究科客員教授として滞在され，アジアの先住民族の調査・研究に従事されました。ホーウィット先生は，11 月 4 日，Indigenous Geographies as challenge and invitation: Geography for and with Indigenous Peoples と題して講演を行われた他，お孫さんを含めてご家族と共に，教室の学生たちとも大変楽しく交流してくださいました。

＜地理学教室への寄贈図書 ～2010年度～＞

個々の寄贈者のお名前は掲載しておりませんが，昨年度，地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です（雑誌・定期刊行物等は除く）。これらの図書は，文学研究科図書館または地理学共同研究室に配置し，学生ならびに教室スタッフの研究・教育に活用させていただいております。厚く御礼申し上げます。

過去にいただいた図書も含めて，これらの寄贈図書は，皆様にもご利用いただ

けるようにしておりますので，どうぞご活用ください。

（図書）

・日常空間を活かした　観光まちづくり／古今書院
・都心・まちなか・郊外の共生／晃洋書房
・貧困の超克とツーリズム／明石書店
・アジアの地下環境―残された地球環境問題―／学報社
・川喜田二郎の仕事と自画像　野外科学・KJ 法・移動大学／ミネルヴァ書房
・金田章裕寄贈図書目録／砺波市立砺波散村地域研究所砺波郷土資料館
・地理学のすすめ：卆の地理人生エッセイ／古今書院（2009）
・軽井沢物語（1991）
・箱根富士屋ホテル物語（2002）
・飛行機と想像力－翼へのパッション（2004）
・大都会の夜－パリ，ロンドン，ベルリン－夜の文化史(2003)
・横浜山手－日本にあった外国（1977）
・横浜にあったフランスの郵便局－幕末・明治の知られざる一断面(1994)
・現代フランスを読む－共和国・多文化主義・クレオール(2002)
・建築家ルドゥ（1996）
・パリ（1986）
・風景の生産・風景の解放－メディアのアーケオロジー（1994）
・子ども世界の地図（1995）
・日本料理文化史－懐石を中心に（2002）
・地図文化史上の広與図（東洋文庫論叢 73）／東洋文庫
・福山市史　地理編（CD-ROM 付）／福山市史編さん委員会
・生存の条件　―生命力溢れる太陽エネルギー社会へ―公益財団法人旭硝子財団・「生存の条件」を読み解くために-DATA 集セット
・映画の記号論／平凡社（1987）
・フットボールの新世紀／廣済堂出版（2001）
・京都観光学のススメ／人文書院（2005）
・文化財保護法―改正のポイントＱ＆Ａ／ぎょうせい（1999）
・流氷の来る街／古今書院(1992)
・風景風土的随想－山陰は暗いのか／ＳＩリサーチ(2000)
・観光を学ぶ－楽しむことからはじまる観光学／二宮書店（2008）
・広重の大江戸名所百景散歩（古地図ライブラリー３）／人文社（1996）
・広重の東海道五拾三次旅景色（古地図ライブラリー３）／人文社（1997）
・ニュー FHG　15 年のあゆみ／野外歴史地理学研究会
・名古屋の“お値打ち”サービスを探る　喫茶店からスーパー銭湯まで／風媒社
・悪道／講談社
・創造の場と都市再生／晃洋書房
・一点一描
・食と農のアメリカ地誌／東京学芸大学出版会
・アフロ・ユーラシア大陸の都市と宗教４／中央大学人文科学研究所編（2010）
・都市と環境の歴史学（第２集・第４集）(2009)
・近代日本の都市体系研究：経済的中枢管理機能の地域的展開／古今書院（2010）
・都市の景観地理：イギリス・北アメリカ・オーストラリア編／古今書院（2007）
・平成 22 年度特別展 > 近世敦賀の幕開け～吉継の治めた湊町～／敦賀市立博物館（2010）
・平成 22 年度秋季企画展　古代西除川沿いの集落景観

／大阪府立狭山池博物館（2010）

・京丹後市久美浜湾の古環境と形成過程―阿蘇海・天橋立との比較―／京丹後市教育委員会（2010）

・景勝をめぐる いしかわの景観史／石川県立歴史博物館（2002）

・第 18 回企画展 幕末・維新期の大山崎／大山崎町歴史資料館（2010）

・墓制・墓標研究の再構築 歴史・考古・民俗学の現場から／岩田書院

・日本地政学の組織と活動―綜合地理研究会と皇戦会―／大阪大学文学研究科人文地理学教室

・人口減少・高齢化と生活環境：山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ／九州大学出版会（2011）

・関西 その生活と環境／古今書院

・名古屋市中区誌／区制施行百周年記念（2010）

・平成 21 年度文翔館特別企画展 明治大学博物館所蔵出羽国村山郡 村絵図の世界 ～村絵図に描かれたふるさとの歴史～

・梅棹忠夫 知的先覚者の軌跡／国立民族学博物館

・世界主要国・地域の人口問題／原書房（2010）

・黒潮圏科学の魅力-人と自然の「新しい」共生をめざして／高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科（2007）

・旅する哲学－大人のための旅行術／集英社（2004）

・アジェのパリ／タッシェン・ジャパン（2002）

・民族誌的近代への介入／人文書院（2001）

・抵抗する都市－ナイロビ移民の世界から／岩波書店（1999）

・博覧会強記／エキスプラン（1987）

・眼の隠喩（新版）／青土社（2002）

・*Belonging a culture of place*（2009）

・*Hauts lieux: une quête de racines, de sacré, de symboles*（1990）

・*La banlieue de Paris dans la bande déssinée*（2001）

・*Black, blanc, beur: la guerre civile aura-t-elle vraiment lieu*（2006）

・*Football: sociologie de la haine*（2006）

・*La ville la nuit*（1977）

・*The perched villages on the Alpes-Maritimes*（1983）

・*Le Salève à la belle époque*

・*Sète, mémoire en images*, tome 1（2003）, tome 2（2004）

・*Le paysage*

・*Les ruines de Paris*（1993）

・*Paris*（1995）

・*Lumière de Lyon*, 8 décembre, fête des lumières（2007）

・*La couleur dans la ville*（2008）

・*The Sage handbook of spatial analysis*（2009）

・*The handbook of geographic information science*（2008）

・*Geographically weighted regression: the analysis of spatially varying relationships*（2002）

・*Les vacances*（2002）

・*The Railway station: a social history*（1988）

・*Champagne, Ardennes*（1933）

・*Narbonne, ville ouverte*（2000）

・*Cahier d' enfrance*（1989）

・*Panégyrique*（1993）

・*Régions et frontières internationales*（1985）

・*Eugène Atget*（2001）

・*Aubervilliers（Mémoire en images）*（2000）

・*Sète, chronique d' un siècle 1907-2007,（Mémoire en images）*（2008）

・*Genius Loci*（1981）

・*Les representations en actes*（1985）

・*Montpellier*（2003）

・*Menton*（Grasset）

・*2 de Géographie*（2008）

・*Imagined country*（1991）
・*Proceedings of the 14th International Conference of Historical Geographers, Kyoto*（2010）
・*Hungary in Maps*
・*FIRST AUSTRALIANS -THE UNTOLD STORY OF AUSTRALIA*（DVD）
・*ETHNIC MAP OF A PART OF ANCIENT SERBIA According to the travel-record of Milos S. Milojevic 1871-1877*
・*Demographic Responses to Economic and Environmental Crises*
・*MAPS OF KOREA Past, Present and Future*
・アンテルナシオナル・シュチュアシオニスト（２～６巻の計５冊）
・*Les vacances et apres?*（1987）
・*Geographies imaginaires*（1991）
・*Le paysage*（1995）
・*l'experience touristique*（1997）
・*Le grande histoire du ski*（1994）
・*Histoire des bains*
・*Les affiches du Leman*（1998）
・*Le gout de geneve*（2005）
・*Le voyage à Genève*（1997）
・*Hermann Hesse*（1992）
・*le jet d'eau de geneve*（1990）
・*The perched villages of the Alpes-Maritimes*（1983）

（雑誌）

・茨城地理 第11号, 2010 （茨城地理学会）
・いま山形から No.75 2010.4
・エネルギー史研究 no.25,2010.3 （九州大学）
・えりあぐんま 第16号, 2009 （群馬地理学会）
・エリア山口 第40号, 2011 （山口地理学会）
・オーストラリア研究紀要 第36号（追手門学院大学オーストラリア研究所）
・お茶の水地理 第50号, 2010
・海洋地質図, no.69,（CD）隠岐海峡表層堆積図, 2010
・外邦図研究ニューズレター No.7 2010.3 外邦図研究グループ（大阪大学人文地理学教室）
・関西学院史学 第38号
・関西大学地理教室学実習調査報告書（34）2009年度
・観光科学研究 第3号, 2010（首都大学東京都市環境科学研究科地理環境科学専攻 観光科学専修）
・空間・社会・地理思想 第13号, 2010（大阪市立大学）
・京都大学東南アジア研究所ニュース NEWSLETTER No.61
・京漁連だより 第419-22号（京都府漁業協同組合連合会）
・研究論叢, 2010, LXXV-LXXVI（京都外国語大学）
・国士舘大学地理学報告 no.18, 2010（国士舘大学地理学会）
・駒澤地理 第46号, 2010
・しま no.221-224, 第55巻, 第4号, 第56巻, 第1-3号（財団法人日本離島センター）
・人文学部紀要 第29号（神戸学院大学人文学部）
・石炭研究資料叢書 no.31（九州大学）
・総合資料館だより No.163-166（京都府立総合資料館）
・測量 第76-7号（日本測量協会関西支部）
・地域研究年報, 32, 2010（筑波大学人文地理学・地誌学研究会）
・地域学研究, 第 23 号（駒澤大学応用地理研究所）
・地域研究, vol.50, no.2, 2010（立正地理学会）
・地域と環境, No.11, 特集 藤岡謙二郎先生収集遺物特集号, 2011（京都大学大学院人間・環境学研究科「地域と「環境」研究会）
・地域と社会, 第13号, 2010（大阪商業大学比較地域

研究所）

・地學雜誌, 2010, vol.119, no2-6, 2011, vol.120, no.1, 東京地学協会

・地球環境研究, 第 12 号（立正大学地球環境科学部）

・地質調査報告, vol.61, no.7/8-9/10, no.11/12, 2010（産業技術総合研究所地質調査総合ｾﾝﾀｰ）

・地図情報, vol.30 no.1-4 （(財)地図情報センター）

・地理, 5-12 月号 vol.55, 2010, 1-4 月号, vol.56, 2011

・地理学評論, vol.83, no.3-6, 2010, vol.84, no.1-2, 2011（日本地理学会）

・地理学研究, 第 38 号, 2010, （駒澤大学大学院地理学研究会）

・地理学研究, 58-59（香川大学教育学部地理学研究室）2009-2010

・地理学報告, 第 110-111 号, 2010（愛知教育大学地理学会）

・地理研究, 18 号, 2011,（法政大学大学院）

・地理誌叢, 第 52 巻, 第 1-2 号, 2010-2011,（日本大学地理学会）

・地理歴史人類学論, 集 1 号, 2010, 琉球大学法文学部人間科学紀要別冊（琉球大学法文学部）

・地理学論集, No.85, 2010（北海道地理学会）

・砺波散村地域研究所研究紀要, 第 27 号, 2010, （砺波市立砺波散村地域研究所）

・島嶼科学 創刊号(2006.6), 第 2 号, 2008, 第 3 号, 2010,（琉球大学アジア太平洋島嶼研究センター）

・東北文化研究所紀要, 第 42 号, 2010,（東北学院大学）

・東北学院大学論集 歴史と文化, 第 45-46 号

・東北大学理科報告 第 7 輯（地理学）vol.57, nos.1/2, 2010

・都市情報学研究, no.15, 2010,（名城大学都市情報学部）

・人間科学, 第 24 号,（琉球大学法文学部人間科学科紀要）

・人間文化, Ｈ＆Ｓ, 27, 2010,（神戸学院大学人文学会）

・奈良大地理, 第 16 号, 2010,（奈良大学地理学会）

・広島大学現代インド研究, 空間と社会, Vol. 1 , 2011, （広島大学現代インド研究センター）

・風景, 1 巻 1 号（昭和 9 年）から 9 巻 11 号（昭和 17 年）まで欠号なし,（風景協會）

・文化史學, 第 66 号, 文化史学会（同志社大学・文化史学会）

・待兼山論叢 日本学篇 44 2010（大阪大学大学院文学研究科）

・待兼山論叢 文化動態論篇 44 2010（大阪大学大学院文学研究科）

・山形大学紀要（社会科学） 第 41 巻第 1-2 号

・立命館大学人文科学研究所紀要 93, 2009,（立命館大学人文科学研究所）

・立命館地理学 22, 2010

・立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成 21 年度事業報告書（立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター編）

・歴史地理学野外研究 第 14 号 2010（筑波大学）

・歴史人類 第 39 号（筑波大学）

・和歌山地理 第 29 号 2010（和歌山地理学会）

・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊第 18 号 -1-2

・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 no.21, 2010

・*2009 JAPANESE PROGRESS IN CLIMATOLOGY*（法政大学気候学談話会）

・*AFRICAN STUDY MONOGRAPHS*, vol.31, no.1-3, 2010

・*AFRICAN STUDY MONOGRAPHS*, Supplementary Issue no.41, 2010

・ *ASIAN AND AFRICAN AREA STUDIES*, 2010, no.10-1,

（京都大学アジア･アフリカ地域研究研究科）

・*Asian Cross-border Marriage Migration*, Amsterdam Univ. Press

・*COSMICA AREA STUDIES*, 2010 XL （京都外国語大学）

・*CSEAS NEWSLETTER*, Center for Southeast Asian Studies Kyoto University, No.62（京都大学東南アジア研究所）

・*GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY*, No.45, 2010

・*MEDITERRANEAN WORLD*, XX, 地 中海論集, 2010（一橋大学地中海研究会）

・*Southeast Asian Studies*, 東南アジア研究, vol.48, no.1

・*Tsukuba geoenvironmental sciences*, vol.5, 2009,（筑波地球環境科学, University of Tsukuba）

（報告書）

・公権力の空間認識に係る近代歴史地理学的研究（2005-2008 年度科研費報告書）（山根拓）

・荘園絵図のイコノグラフィと景観表現に関する美術史的研究（平成 12-14 年度科研費報告書）（中村興二）

・九州地方における明治期～昭和前期の農業開拓に関する地理学的研究（平成 13-15 年度科研費報告書）（出田和久）

・古墳文化の地域性に関する地理学的研究―九州と近畿を中心に―（平成 19-21 年度科研費報告書）（出田和久）

・日本近世生活絵巻 東海道編（神奈川大学 21 世紀プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書）（2007）

・日本近世生活絵巻 北海道編（神奈川大学 21 世紀プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書）（2007）

・地図史料学の構築（東京大学史料編纂所研究成果報告）第 1 部, 第 2 部（2010-2009）

・地理思想および社会思想としての「郷土」に関する研究（2007-2009 年度科研費報告書）（大城直樹）

・近代日本の歴史的時空間データマイニングのための基盤整備（平成 19-22 年度科研費報告書）（山田奨治）

・大巡検 諏訪（お茶の水女子大学地理学コース）（2009）

・OCEANS 海洋・地球環境保護アトラス／同朋舎出版

・2010 年度地理学野外実習報告（中部大学人文学部歴史地理学科）

・地域調査実習報告書 2009 年度「松本」（金沢大学）

・地域調査報告 12 松山市とその周辺（2009）（九州大学文学部地理学研究室）

＜研究室の動静＞

教室の事務は，引き続き三上純子さんにお願い致しております。

本年度は，大学院博士後期課程２名，修士課程９名，学部４回生１４名，３回生１３名，聴講生１名，科目等履修生１名が在学中です。

＜３回生，新修士１回生の自己紹介＞

本年度は，新たな顔ぶれとして，３回生１３名，修士課程１回生１名を迎えました。皆さんに簡単に自己紹介していただきます。

（３回生）

井出　健人

地理学教室新三回生の井出健人と申します。神奈川に生まれ，浜松，広島，名古屋，人吉，福岡と日本各地を転々として来ました。中高時代は鹿児島で寮生活を

送り，大学進学後も相変わらず寮で集団生活を送っています。これから，どうかよろしくお願いいたします。

小澤　南帆美

３回生の小澤南帆美（おざわなおみ）です。出身高校は長野県松本深志高校ですが，これまでの人生の半分位はこの辺りで過ごしています。いつか地形図を全部集めて並べてみたいです。そんな広い場所ないですが。これからどうぞよろしくお願い致します。

北野　彰子

こんにちは！三回生の北野です。日本史とかの歴史を地理の観点から見てみたいと思って地理学を専攻しました！アクティブな事と落書きが大好きです。鴨川と夜の大文字も好きです。最初は人見知りするかもですが，内心うずうずしてます。よろしくお願いします。

佐野　春樹

新３回生の佐野春樹といいます。京都出身です。軽音サークルで細々とベースを弾いてまして，広く浅くいろいろ音楽を聴いてます。あと，映画を観るのも好きで，主に邦画をよく観ます。よろしくお願いします。

竹輪　大志郎

地理学専修新三回生の竹輪大志郎です。静岡県浜松市の細江町出身で，うちではみかんつくってます。中学の時は卓球部で高校ではなぜかあったマンドリン部，その縁で今は京大マンドリンオーケストラ所属です。よろしくお願いします。

旅家　法子

富山県の高岡高校出身の旅家です。「旅家」と書いて「たや」と読みます。地元が大好きです。黒部ダムも氷見のブリも砺波の散居村も愛しています。新湊人なので特に白エビを推します。しかし合掌造りは見たことないです。見てみたいです。宜しくお願いします。

土江　洋範

土江洋範（ツチエヒロノリ）と申します。奈良県北葛城郡にある，皆さん御存知「靴下の町」広陵町出身です。広陵町の形状も実際に靴下の形をしている？と言われているので，お暇な方はぜひ地図で確認してみて下さい。ちなみに五指入穴付靴下がオススメです♪

冨久保　晴彦

新３回生の冨久保晴彦です。愛媛県八幡浜市出身です。みかんの町ですが，実家は農家ではありません。京大生協のサークルで「京大周辺ガイドブック」という冊子を制作しています。生協店舗で売ってるので，よかったら読んで下さい。よろしくお願いします。

長尾　拓磨

サイクリング部に所属していて全国をふらふらと旅行しています。年に３ヶ月ほ

ど。そうしているうちに地名や都市の景観に興味が湧いたので地理学に進むことにしました。これから徐々にやることを決めていきたいです。よろしくお願いします。大阪出身です。

前田　真壽実
初めまして，前田真寿実と申します。愛知県名古屋市出身で，好きな食べ物はみそ煮込みうどんです。泳ぐのが好きで，水泳サークルに所属しています。もし良かったら一緒に泳ぎましょう！こんな私ですが，よろしくお願いいたします。

松村　晃宏
新３回生の松村晃宏です。出身は京都で，嵐山の近くの実家から通学しています。京大ソフトテニスサークルに所属しています。趣味は軽い運動，サイクリング，テレビなどです。よろしくおねがいします。

森　　理紗
神戸からきました，森理紗です。スキューバダイビングをやっていて，沖縄や串本などいろいろな海を潜っています。登山やサイクリングやスポーツといったアウトドアなことが好きです。迷惑をかけることもあると思いますが，よろしくお願いします。

森下　裕基
地理学研究室新３回生の森下裕基です。京都大学では意外と少ない京都生まれ京都育ちです。これからも京都を離れるつもりは，全くありません。趣味は，バレーボールと地図を見ることです。補足ですが，身長が高いです。

（修士課程１回生）
小河　泰貴
大阪大学外国語学部を卒業し，岡山県の高校の講師として１年働いて入学した小河です。大学で陸上をしていました。最も過酷な種目の１つといわれる 400m に打ち込み過ぎたせいか身体は結構弱いです。地理学を専門的に勉強していなかったので，多少不安はありますが，この１年間「広く深く」をテーマに研究に取り組みたいと思います。

〈2010年度の実習旅行〉

2010 年度は，10 月 25 ～ 28 日まで，石川県加賀市において，２回生・３回生の計１２名が調査を行い，報告書を作成しました。

〈学部卒業生・院生の進路〉

＊学部卒業生
長谷川　佳代
石江　悠治
岩橋　涼　　文学研究科（修士課程）
外賀　雄太　　文学研究科（修士課程）
中川　あゆみ　　小田原市役所
林　良彦　　文学研究科（修士課程）
藤村　友太　　東海旅客鉄道（JR 東海）
＊修士課程
阪口知洋　　住友ゴム工業株式会社

〈院生の研究状況の報告〉

今年度までの院生の研究状況を報告します。以下は，閲読を経た論文のリストです。

D３　沖　　慶子

・牧口常三郎著『人生地理学』の同時代評，地理科学 58-2，65-91 頁(2003)

D３　網島　　聖

・明治後期地方都市における商工名鑑的「繁昌記」の出版―山内實太郎編『松本繁昌記』を事例に―」，史林，93-6，119-144 頁（2010）

M２ 趙 政 原

・日本拓展文化產業的經驗及對我國的啟示，世界經濟與政治論壇，2008-5，118-124 頁（2008）。

M１　嘉村俊也

・郊外住宅地における住民の生活行動と周辺交通環境－広島県呉市昭和地区の事例－，地理科学，66-1，20-37 頁（2011）

〈2011年度講義題目〉

＊講義（系共通科目）＊

小林致広・石川義孝　　人文地理学概説

＊特殊講義＊

教授　小林致広　マッピング，景観と領域編成

教授　　石川義孝　現代日本の人口地理学的検討

教授　　田中和子　空間行動のシミュレーションに関する諸問題

准教授　米家泰作　地理的「知」の歴史地理学

人環教授　金坂清則　人文地理学における人物・人物群研究

地球環境学堂教授　小方　登　衛星画像分析の原理，およびその応用としての歴史景観復原

理学部准教授　堤　浩之　地形学

講師　堤　研二　地域変動と地域空間の縁辺化

講師　水野真彦　経済地理学の諸問題

講師　木村義成　地理情報学演習

講師　阿部和俊　地域構造と都市体系―日本から世界へ―

講師　春山成子　アジアの巨大デルタの環境変化

講師　青山宏夫　地図と地図空間の歴史地理

＊演習Ⅰ―地理学研究法―＊

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

＊演習Ⅱ―４回生演習―＊

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

＊講読＊

教授　小林・石川　　英語地理書講読

教授　田中和子　　ドイツ地理書講読

人文研助教　田中祐理子　フランス地理書講読

人文研助教　小野寺　史郎　中国地理書講読

＊地理学実習＊

田中和子・米家泰作

＊大学院演習―地域の諸問題―＊

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

事務局から

＜地理学談話会2010年度会計報告＞

（2010 年 4 月 1 日～ 2011 年 3 月 31 日）

【資金会計】

〈収入〉

年会費	165,000
寄附金	0
利子	117
前年度繰越金	541,703
計	706,820

〈支出〉

運営への振替	161,660
郵便振替手数料	9,960
次年度への繰越	535,200
計	706,820

【運営会計】

〈収入〉

資金会計からの振替	161,660
秋期懇親会会費	73,000
春期懇親会会費	95,000
計	329,660

〈支出〉

秋季懇親会	65,655
講師 3 名交通費	67,320
OB 交流会経費	4,450
春季論文発表会経費	95,000
会報・名簿等印刷費	5,000
通信・文具等費	90,435
弔電・供花等	1,800
計	329,660

＜訃報＞

前回の会報以降，次の方々がお亡くなりになりました（お亡くなりになったとのお知らせをいただいた方を含みます）。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（確認分，括弧内は卒業年，敬称略）

河野　通博（1941 年卒）
宮畑　巳年生（1948 年卒）
岩瀬　和博（1959 年卒）

＜住所不明者についてお願い＞

以下の会員の住所が不明です。ご存じの方は，談話会事務局までご一報ください。（数字は卒業年，敬称略）

安福　伸光	（1997 年卒）
池内　麟太郎	（1973 年卒）
石角　強	（1970 年卒）
石橋　弘嗣	（2006 年卒）
石原　大嗣	（1997 年卒）
石原（林）　美歩	（1995 年卒）
石村　裕輔	（1992 年卒）
今井　平八	（1944 年卒）
上田　直人	（2009 年卒）
岩部　敏夫	（1991 年卒）
江崎　健治	（1992 年卒）

遠藤　元	(1996 年卒)
遠藤　正雄	(1978 年卒)
太田　隆文	(1997 年卒)
大野　宏	(1992 年卒)
大山　晃司	(1995 年卒)
岡本　靖一	(1967 年卒)
岡本　美津子	(1987 年卒)
興津　俊之	(1991 年卒)
小口　稔	(1991 年卒)
小野寺　伴彦	(2000 年卒)
楓　雅之(泰昌)	(1945 年卒)
叶谷　房子	(1998 年卒)
片寄弘也	(2004 年卒)
勝村（赤座）　眞知子	(1973 年卒)
川合　大地	(1998 年卒)
川添　和明	(1995 年卒)
貴志　謙介	(1981 年卒)
木地　節郎	(1949 年卒)
北口　卓美	(1990 年卒)
児玉　高太朗	(1990 年卒)
西井（小林）　理子	(2002 年卒)
酒匂　幸樹	(2000 年卒)
坂部　誠治	(1991 年卒)
島崎　郁司	(1996 年卒)
嶋野　浩一朗	(1997 年卒)
清水　究吾	(1998 年卒)
新谷　泰久	(1990 年卒)
鈴木　伸国	(1988 年卒)
田島　渡	(1948 年卒)
都子　厓	(1940 年卒)
中山　耕至	(1993 年卒)
那須　久代	(1988 年卒)
楢崎（藤川）　こず恵	(1998 年卒)
南部　一寿	(1999 年卒)
西尾　正隆	(1970 年卒)
西沢　仁晴	(1974 年卒)
西山　隆彦	(1995 年卒)
能勢（朝倉）　正寛	(1962 年卒)
平井　素子	(1996 年卒)
福田　新一	(1971 年卒)
前田　奈実	(1999 年卒)
松本　弘史	(1983 年卒)
御手洗　央治	(1993 年卒)
山口　一郎	(1980 年卒)
山下　良	(1989 年卒)
山田（児玉）　憲子	(1970 年卒)
山中　一高	(1991 年卒)
吉野　修司	(1995 年卒)
吉村　健志	(2002 年卒)
六嶋　美也子	(1993 年卒)
渡邉　克己	(2004 年卒)

＜オープンキャンパス：2010年度の報告と2011年度のお知らせ＞

2010 年８月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として，11 日に行われました。文学部の全体説明のあと，各自が希望する専修の研究室を訪問してもらいました。

2011 年度の京都大学主催の全学オープンキャンパスについては，
http://www.kyoto-u.ac.jp/
をご覧下さい。文学部の見学・説明会は，８月 11 日（木）の予定です。

地理学教室では，学部だけでなく大学院の受験志望者や，中学高校の教員の方々，また，一般の市民の方にも来て頂けるような企画を検討しております。今年度は，10 月 29 日（土）に開催を予定しています。詳細な日程や参加申込の案内は，地理学教室のホームページ，
http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geo/
に，掲載する予定ですので，そちらをご覧下さい。

＜2011年度秋季地理学談話のお知らせ＞

本年は，下記のようなプログラムを予定しております。ぜひお越しください。

記

日　時：１０月２９日（土）
　　午後１時―５時
場　所：文学部新館１階
　　第１・２講義室
◎教室見学会：午後１時より
◎ OB 交流会：午後２時より
　講師　岩田　憲司氏（1996 年卒）
　　勝部　泰行氏（2007 年卒）
◎講演会：午後３時半より
　端　　信行　氏（1966 年卒）
◎懇親会：午後５時より
　　（文学部新館　第１講義室）

＜地理学教室所蔵の写真資料について＞

地理学共同研究室や総合博物館地理作業室のロッカーの中に保管されていた地理学教室関係者の古い写真が数百枚あります。

卒業生の方々に見ていただき，写真に関する情報のご提供や，整理方法のご教示などをいただければと願っております。

どうぞ，お気軽に教室をお訪ねいただき，アルバムをご覧くださいますよう，お願い申し上げます。

＜地理学談話会名簿改訂のお知らせとお願い＞

本年度は，名簿改訂の予定です（9月発送予定）。恐れ入りますが，必ず，同封のはがきにて，ご連絡先等をお知らせください。準備と印刷の都合上，6月末必着でお送りくださいますよう，お願いいたします。

なお，お寄せいただいた情報は，会員名簿の作成および談話会・地理学教室から会員の皆様へのお知らせやご案内等のみに活用いたします。どうぞ，ご了解くださいますよう，お願い申し上げます。

****

会員の皆様のなかで，このたびの東北地方太平洋沖地震と津波により被災された方はおられませんでしょうか。

被災地に在住の会員ならびに関係の方々の安否について，ご存じの情報がございましたら，地理学教室までお知らせくださいますよう，お願いいたします。

☆一年あたり千円を目処として，それぞれの会員の方々に，談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時，ご支援をお願いいたします。納入の際は，同封しております「郵便振替用紙」をご利用下さい。

京都大学文学部地理学談話会　会報　第 22 号

発行日　2011 年 5 月 15 日
発行者　地理学談話会
〒 606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部　地理学教室内
TEL: 075-753-2793（直通）
発行所　京都大学文学部地理学教室
URL　http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geo/